

英語英文学科と日本英語表現学会を歩まれた 橋本宏先生への賛辞

中村 匡克

橋本宏先生には、研究者としても教育者としても本学会の創立期を支えて頂いたことを深く感謝いたします。研究者としてはイギリス小説を中心とした英文学研究、教育者としては早稲田大学教育学部英語英文学科の重鎮として貢献され、本学会では三代目会長に就任され、ビターなうちにもユーモアをたたえて人生を完成されました。一時は、その研究室を学会事務所のよう提供してくださり、そこで当時の委員の先生たちと手弁当で、会議したり印刷や発送の事務処理をしたり、コーヒーを飲みながら歓談したりしたことが懐かしく思い出されます。

先生が会長をなされた本学会は1982年9月20日に、筆者が勤務していた工学院大学（新宿）の大会議室に100名以上の同好者（ほとんどが早稲田大学教育学部英語英文学科卒業の英語関係者）が参集して、英語表現研究会として旗揚げし、一年も経ずして日本英語表現学会として発展し、ついには日本学術会議登録団体となり、最盛期には会員400名を越えました。創立者の新島通弘教授、二代目小島義郎教授の後を継いで、先生は三代目会長にご就任されて、この英語英文学科所属の三教授が学会の創立期を纏め上げられました。この三代の会長に副会長として協力できたことは、創立から関わった者として誠に幸いです。

先生も小島義郎会長と同じように、日頃から、「この学会は和気藹々としていいね」と仰っていました。創立期には皆が手弁当で、ヴォランティア精神で会の運営に携わり、「わが学会」という意識が強かったからです。これからは三代にわたって英語英文学科の教授たちが会長になられた基礎を大切に、院生を含む英語英文学科と日本英語表現学会が二人三脚で日本の英語英文学の世界に貢献することを期待しています。

古来、人間は土の器と言われます。銀河は永遠の世界の象徴です。そして人の一生はそれぞれ掛け替えのない開拓史です。

銀河に彫る土の器の開拓史

（日本英語表現学会会長）